

機熟す「日本体育協会」名称変更へ

根底にあるのは「体育」か、それとも「スポーツ」か。

2020年に東京で2回目の夏期オリンピック・パラリンピックを迎えることも含め、スポーツということば自体が広く浸透。

認識の違いこそあるものの誰にでもスポーツの意味するところは通じるようになりました。

21世紀に入りスポーツは成熟時代を迎えました。

20世紀はスポーツ＝競技スポーツでしたが、今や競技スポーツはスポーツの一つにすぎなくなった。

ユネスコでは、1978年、「体育・スポーツに関する国際憲章（体育・スポーツの実践はすべての人にとっての基本的権利）」を宣言しましたが、2015年に大改訂。

スポーツ＝国際平和であり、人種差別を根絶し、健康や環境と密接に関わり大きく貢献するとしました。

国際連盟も、「開発と平和のためのスポーツ」と「2030アジェンダ」を採択し、スポーツの多義性が言及された。こうした流れから日本体育協会の名称変更時期は成熟してきています。

体育、スポーツ、今どちらも使われていますが、大きく変化したのは特にここ10年。健康や体力増進、競い合うことなどが主だったものが、「スポーツ宣言日本－21世紀におけるスポーツの使命」（2011年）において、スポーツを文化として楽しむことや、スポーツを通して社会が抱えている課題の解決に貢献していくことが述べられ、2017年3月には「第2期スポーツ基本計画」も発表され多様化しているスポーツや、スポーツにより個人の人生だけではなく、社会、世界、未来とつながっていくとも盛り込まれました。グローバルスタンダードに立てばスポーツは手段ではなく、「スポーツ宣言日本」の言葉を借りれば「自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化」です。

このような流れから、2017年6月7日、日本体育協会、理事会において

2017年4月1日から、「日本体育協会」から「日本スポーツ協会」への名称変更が決定されました。

Sports Japan Vol. 31, 2017, 05~06から抜粋

これに伴い、2018年から「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」に名称変更される予定です。

岐阜県バドミントン協会

スポーツ医科学委員長

小島 敏弘